平成 27 年度　荒浜小学校　共同研究計画

１　研究テーマ

ふるさと荒浜と共に

～　復興のため　わたしにできること　～

２　テーマ設定の理由

（１）　教育の今日的課題から

平成２３年の東日本大震災を契機として，防災教育等の見直しが進められ，平成２４年４月には防災を含む学校における安全に関する取組を総合的かつ効果的に推進するための「学校安全の推進に関する計画」を閣議決定した。

仙台市では，平成２４年度に防災教育の基本的な方向を示し，防災教育モデル校を中心に全市的な取組を進めてきた。本校もまた初年度から昨年度までの３年間，防災教育モデル校の指定を受け，全校で防災教育に取り組んできた。今年度は，これまでの研究を更に充実させ，自分たちの手で未来を切り開いていこうとする児童を育てるために，荒浜の復興に自らが参画することを中心とした防災教育に取り組んでいきたい。

（２）本校の教育目標から

本校の教育目標は『豊かな心をもち，自ら考え進んで行動する子供の育成』である。これまでも，多方面から教育目標に迫るための試みをしてきたが，昨年はふるさと荒浜に関わる活動を基盤に据えた研究に取り組んだ。子供たちは，異世代と交流することで故郷への理解を深め，荒浜の人たちの思いや復興への歩みを知ることができた。そして，復興のために自分たちにできることを考え，いろいろな場で発信することができた。来年春の統合を控えた本校の児童には，将来一人一人が故郷のことを考え復興に向けて取り組んでいくことを期待したい。そこでこれまで「復興のためにわたしたちにできること」としていたサブテーマを「わたしにできること」にして，「自分が取り組む」という意識を高めていきたい。

また，閉校までの最後の１年間，荒浜の人，歴史，自然，それを取り巻く人たちの思いを学ぶことで，地域のために自ら進んで行動する児童を育成していきたい。

（３）　児童の実態とこれまでの取組から

本校の児童１６名は，東日本大震災で津波の被害を受け，多くのものを失った。あれから４年が経過し，新しい住まいの見通しもたち，親子共に大分落ち着きを取り戻してきたと思われる。

昨年５月には，震災以来初めて全校で荒浜を訪れ，荒浜の現状を自分の目で見たり，そこで活動する人々の思いに触れたりして，それぞれの課題をつかむことができた。防災教育に取り組むことに不安をいだいていた私たちであったが，児童の様子からは「もっと荒浜に行きたい。」「もっと荒浜の人と触れ合いたい。」「もっと荒浜について学びたい。」という意欲を感じることができた。反面，３，４年生の児童は震災当時幼稚園の年少，年中であったため，予想以上に荒浜の記憶がないことに気付かされた。そこで，児童が実際に荒浜を訪れたり地域の人から話を聞いたりして，故郷を知るための活動を多く取り入れることにした。その結果，児童から「これまで，こんなに荒浜のことを考えたことはなかった。」「前より荒浜が好きになった。」という声が聞かれた。今年度も，引き続き荒浜と関わる活動を通して故郷への思いを膨らませ，今後も荒浜を胸に抱き続けるためのきっかけにしてほしい。

昨年度，２年生は特別活動・生活科，３年生以上は総合的な学習の時間を中心に，学習を進めてきた。２年生は「ぼくの非常持ち出し袋」，３年生は「めざせ！荒浜はかせ」，４年生は「あったらいいな　こんな公園」，５年生は「復興のために　ぼくたちにできること」，６年生は「荒浜の防災」をテーマに学習し，そのまとめとして国連防災世界会議で発表するに至った。25 年度は「いのちを守る」というテーマで主に総合の中で自助，共助といった防災対応力の育成に取り組んできたが，昨年度はそれらを他教科や道徳の時間に扱ってきた。今年度も防災副読本の活用計画と照らし合わせながら，総合では復興に関わろうとする「態度」を，総合以外の時間では主に「知識」や「技能」を身に付けさせていきたい。

昨年１年間の学習を終えて，復興のために微力ながらも自分たちにできることがあるという手ごたえをつかむことができた。来年度はそれぞれの場所に巣立っていく児童に，荒浜の良さを十分感じさせ，明るい希望を持たせたい。そこで，荒浜の復興のために自分ができることを考えることを通して今後の自らの生き方を考える土台を築きたいと願い，本テーマを設定した。

３　教科・領域等

全教育活動を通して指導していく。ただし研究授業は，総合的な学習の時間に行う。

４　研究のねらい

ふるさと荒浜の様子から，復興のために自分にできることは何かを考え，実践しようとする児童を育成する。

５　研究の視点

（１）　児童が主体的に取り組むことができる教材の開発
（２）　学びを整理し，考えを深めていくことができる単元構想の工夫

視点（１）について

故郷である「荒浜」には昔も今も学ぶべき教材が多数ある。先人の知恵や，復興の様子を理解したり地域の人の思いを感じたりすることで，児童が自ら意欲を持って取り組むことができる教材を開発していきたい。

視点（２）について

「目指す子どもの姿」が達成できるように，年間を通じて見通しを持った計画をする。児童が活動の振り返りをしたり，友達の考えを聞いたりしながら，新たな課題を見つけ追及していくことができるように，単元や１時間ごとの指導計画，授業の展開などを吟味する。

６　育てたい力・目指す子どもの姿

本研究では，育てたい力を「見いだす力」「みつめる力」「かかわる力」の三つとした。

「見いだす力」

総合的な学習の時間において，課題設定が重要な意味を持ち，その後の内容を決定する柱ともいえる。活動を通して，自らが取り組むべき課題を見つけられることができる力を身に付けさせたい。

「みつめる力」「かかわる力」

私たちは荒浜という地域を学ぶことで，復興のために自ら考え，実践しようとする児童を育てようとしている。それは他者とのかかわりなくしては，実現することはできない。そこで，本研究の育てたい力や目指す子どもの姿は，「自分づくり教育」の視点と関連付けながら培っていきたい。

参考　「自分づくり教育」の視点

「みつめる力」・・・「自己理解・自己管理能力」

〇自分のよさや他者との違いを理解できる力

〇自分の役割が分かる力

〇忍耐力やストレスをコントロールする力

「かかわる力」・・・「人間関係形成・社会形成能力」

〇他人のよさや個性を理解できる力

〇考えや気持ちを伝え合い協力できる力

〇人や地域を大切にする力

Key word	育てたい力	目　指　す　子　ど　も　の　姿		
		３年生	４年生	６年生
ふるさと　荒浜	**見いだす力**〔課題設定〕「荒浜」の昔・今・未来を見つめる中で，自らが取り組むべき課題を見いだす。	体験から生まれた疑問や,調べてみたいことをもとにして，教師の助言を受けながら課題を設定する。	これまで取り組んできたことをもとに，さらに調べたいこと，実践したいことを明確にして課題を設定する。	自分の気づきを大切にしながら，解決すべき問題を吟味して，自ら課題を設定する。
	みつめる力〔思い･考え〕復興に携わる人々の気持ちを汲み取り，復興や防災への思いを高める。	「あらはまカルタ」で取り上げられている場所や人を調べながら，**「荒浜」の良さ**を感じることができる。	荒浜の今の様子を多方面から見つめ直し，荒浜を取り巻く**いろいろな立場の人の視点から**復興について考えることができる。	他の震災の被害についても知ることで，それぞれの被災者や支援者の気持ちを考え，**復興，防災への思いを高める。**
	かかわる力〔行動〕他者の多様な考えや立場を理解して，自分にできることを実践する。	**「荒浜」の人や自然，歴史との関わりの**中で分かったことをもとにして，協力して「新荒浜カルタ」を作成する。	**荒浜の今の様子を多くの人に伝える方法**や，荒浜に緑を増やすために自分たちにできることは何かを考え，主体的に行動する。	荒浜小学校最後の年の最上級生として，荒浜校舎に横断幕を掲げ，**多くの人に向けてメッセージを発信する。**

＊太字は，仙台市「杜の都の学校教育」防災対応力の構成要素とのかかわりを表す。

7　研究の方法

（１）　授業研究

・全員授業を行う。

・事前，事後に検討会を持つ。

事後検討会の持ち方は，協議・助言型（従来型）とする。

（２）情報共有

・　職員一人一人が，よい文献の発掘にあたり紹介し合う。

・　授業等で使いやすいソフトなど情報を提供し合う。

・　復興関連のニュースを敏感に察知し，必要な情報は共通理解する。